

(株)アグリサポート夢 代表取締役

迫沼満寿さん

明日へ向かって駆ける

農業法人の経営者は語る

「条件の悪い農地の受け手をどのように確保するのかが大きな課題だった」と話すのは、J A京都にのくへの専務で、福知山市中六人部地区の「(株)アグリサポート夢」代表取締役の迫沼満寿さん(59)。中六人部地区は市南西部に位置し、約120鈔の農地が広がっている。同地区では、担い手に農地を集積し、深刻化する耕作放棄地の拡大に歯止めをかけ、地域農業を持続していくため、2016年に「中六人部地域農業活性化協議会」が設立した。同年11月には、農地の出し手と受け手をマッチングする仕組みとして「中六人部農地銀行」を設立した。同地区の農地には、営農条件の良い平場と条

件の良くない農地が存在し、どの農地を誰が受けるのかが課題となった。そこで同地区を管轄するJ A京都にのくへと検討を重ね、農地の受け手の一つとして、J A出資型法人「アグリサポート夢」が17年1月に設立された。J A京都にのくへと初めての子会社として管内の担い手や集落営農組織と

ともに農地の保全に取り組んでいく。同法人は「条件の悪い農地」や「遊休農地」を集積し、平場の「条件の良い農地」を担い手農家に優先的に集積してもらうことで、担い手農家の所得を向上させ、地域全体の農地を守る取り組みを進めている。



▶アグリサポート夢の事務所

農家の組合であるJ Aになら安心して任せられると、農地を預かり農作業を依頼してもらえ、一方で、法人が優良農地ばかりを預かると担い手農家のビジネスチャンス奪うことになる。またJ A出資型法人が条件の悪い農地ばかりを

預かり、収益を上げられないようでは長続きはしない。

「今後の課題は、継続して事業運営していくために必要な利益が得られる事業を検討していくこと。あとは経営面積の確保と管理農地の鳥獣害対策だ」と迫沼さんは話す。

また、「将来的にはU・Iターン等の就農希望者の研修受け入れや、就農希望者への施設や農地の紹介、また体験農園などの食育教育などにも取り組んでいきたい」と夢は膨らむ。

「設立から1年。また経営は安定しないが、J Aが参入することで地域農業が維持でき、J A出資型法人と担い手農家がうまく棲み分けできるモデルケースになるように取り組んでいきたい」と迫沼さんは地域農業の今後のあり方を語る。

■法人所在地 福知山市字大内1803。(電) 0773(27)3588。

■法人概要 2017年1月設立。役員3人、株主(J A・個人2名)。経営面積 4・67鈔。農業機械 トラクター1台、コンバイン1台、田植え機1台。

担い手に農地を集積